

No11 一斉の指示が聞けない、授業中に発言が止まらない子への対応

活動の内容ややり方などの説明・指示を、全く聞いていなかったり、聞いていてもいざ行動する時に何をすればよいのか分からずキョロキョロしてしまう児童生徒がいます。

あるいは、教師が説明や発問をしている最中なのに、最後まで聞かずに割り込んで話し始めてしまったり、友達の話を聞かずに、自分の言いたいことだけを一方的に話してくるなどの児童生徒もみかけます。

これらの子どもたちは、「言葉で聞く」ことや、「注意集中」がとても苦手な子どもたちであり、下記のような配慮が必要です。

一斉の指示が聞けない。聞いていても行動できない。

- ・自分に向けられた指示だということを感じていない。
- ・多くの指示を一度に出されると、覚えていられない。
- ・何から先にやればよいのか優先順位がつけられない。

- ・「これから、大事なことを、2つだけ言うよ。」など、話の前に注意をしっかりと喚起させます。それでも自分に向けられていることが分からない場合は、肩をたたいて「 さんに言いますよ」と意識付けを図るようにします。
- ・分かり易い説明や指示の工夫をすることも大切です。
 - 指示の言葉を短くする
 - 一つの指示による行動ができてから次の指示を出す
 - 大事なことは、絵や文字にして視覚に訴えるようにする など
- ・説明や指示を理解しているかどうか確認（復唱するなど）し、一番初めに何をすればよいのか、二番目に何をするか確かめます。
順序を視覚的に整理してあげることもいいでしょう。

授業中に発言が止まらない。人の話に割り込んでくる。

- ・その場の状況や、どうするべきか、などが分からない。
- ・約束は分かっているけど、言いたいことがあると我慢できない。

- ・学級全体で、話の聞き方について、ルールを決め、カードなどにしてよく見えるところに貼っておく。（例えば、「目で聞く」「心で聞く」など）当該児が話出したら、黙ってそのカードを差し、気付くようにします。
- ・話してよい時間と、話してはだめな時間を色別・図示で黒板に表示しておくなど、見て気付く表示を工夫してみます。
- ・「後で必ず聞くからね」と約束し、安心感をもたせます。
どうしても話したいことがある場合は、拳手の仕方（サイン）を工夫し、「どうしても話したい」の合図が送れるようにしたり、何分間・何回だけなど、話の長さや回数の約束を作ったりしてみるのも一つの方法です。



<指導のポイント>

どうしても自分の興味関心があることを、場にそぐわず話し出してしまう児童生徒には、「自分の好きなことをみんなが好きとは限らない」「興味や関心は、一人一人みんな違う」ということや、「今、その事を話し出すのはこの場の流れに合っていないから、休み時間に聞かせてね」など、これからどうしたらよいかを分かり易く教えていく必要があります。